

ひっこばあさん

小学校 四年

武田^{たけだ}

大和^{やまと}

ある日突然いなくなった

ひっこは九十一才、自然死だった

あまりにもあっけなくいつてしまった

涙があふれて止まらなかった

ぼくとひっこは、とても仲よしだった

いっばいおしゃべりをした

学校のこと、旅行のこと、友だちのこと

ひっこはいつも

「よかったなあ」と楽しそうに聞いてくれた

テストの点が悪いとき

「次からがんばれよ。」

と、はげましてくれた。

いっしょにおり紙をしたこともあった

カブトムシやクワガタムシを折った

ひっこはぼくを

「やまちゃん」

と呼んでかわいがってくれた

一回だけでいいからひっこに会いたい

今はもうひっこの部屋は空っぽ

ひっこは、ぼくの心の中にいる

ひっこに会いたいときは

ぼくが思いだせばいい

ひっこはぼくのそばに

いつもいてくれる

ぼくはそんな気がしてならない